

第106回 東日本地区研究例会・第21回 英語教育・メディア研究分科会共催のお知らせ

第106回 東日本地区研究例会・第21回 英語教育・メディア研究分科会を、3月8日（土）午後2時より開催いたします。東日本地区はもちろん、中部地区、西日本地区からの参加も大歓迎です。非会員の方々の参加も歓迎いたします。（対面会場の入構申請とZoom情報の送付のため、申込制です。）

【日時】：2025年3月8日（土）14:00~16:30

【開催形式】：ハイブリッド形式

<対面>：いいずな書店3階（東京都台東区台東1-32-8 Crobis 秋葉原 4F）

<オンライン>：Zoom（前日までにZoom情報送付予定）

【会費】：無料（会員・非会員共）

【申込】：こちらのURLからお申込みください。 <https://forms.gle/ZMnD5sE8wQiwZ1QM9>

【締切】：3/5（水）

※定員に達した場合締切（会場[対面]の定員：20名、オンラインの定員：20名）

【連絡先】：吉原 学 [日本メディア英語学会理事、慶応義塾大学講師]

manabicreation[a]gmail.com ※[a]をアットマーク（@）に変更して下さい

【概要】：

第1部：会員発表（14:10~14:40）

発表者：中村俊佑先生（五日市高等学校教諭）

発表題目：「生徒の『できた』を増やす3年間を通したプロジェクト英語の実践」

要旨：進路多様校では、英語に対して苦手意識を持つ生徒が多く入学してくる。（R3年度の入学生127名に取ったアンケートでは、9割の生徒が「英語が苦手」、7割の生徒が「英語が嫌い」という結果であった）入学時にアルファベットが怪しい生徒もあり、当然のことながら、授業への取り組みのモチベーションも低い。このことから、「英語を教える」から、「英語で生徒の『できた』を増やす」へと授業観を転換し、3年間のタスク中陳の英語指導計画を策定し、各学期で設定するタスク遂行型の授業スタイルにした。英語劇、CM作成、PV作成、英語スピーチ、歌、プレゼンテーション、インタビュー活動等を通して英語を使って何ができたかを重視している。授業では生徒が体を動かして声を発する機会を7割とし、教師の発言は3割に留め、ペアやグループでの協働学習を行う授業スタイルを確立している。学年末には英語コンテストでクラス、全校生徒の前で発信する機会を作っている。こうした活動を通して、生徒の自己肯定感を少しでも上げ、生徒の「できた」を増やす英語教育の可能性と課題を会場の皆様と論考していきたい。

発表者プロフィール：
中村 俊佑：



東京都立五日市高等学校主幹教諭。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。主な著書・論文に、『高等学校進路多様校の学級経営&生徒指導はじめてガイド』（明治図書）、『イメージでわかる表現英単語』（Gakken）、『英語イメージ大図鑑』、『コアで攻略する英単語の教科書』（いずれも共著・Gakken）、『多文化共生時代の英語教育』『MEWシリーズ』（全6冊）（いずれも共著・いいずな書店）、文部科学省検定教科書『New Rays English Communication I～Ⅲ』および指導書の著作者、『PRO-VISION English Communication指導書』（共著・桐原書店）、『ニュース英語で4技能を鍛える』（三修社・執筆協力）、「第二言語習得における句動詞」（KEIO SFC JOURNAL Vol.13 No.1）、『お笑い芸人と学ぶ13歳からのSDGs』（くもん出版・執筆協力）、Teaching verb+ing form, infinitive, or base form（共著・TESOL Encyclopedia of English Language Teaching）等がある。令和6年度東京都教育委員会職員表彰受賞（学校運営の推進、部活動指導の充実）。現場では、英語教育、進路指導に力を入れており、さらに探究学習や部活動では数々の表彰歴、全国大会入賞等の実績を残している。JICAとも連携を深くしており、教師海外派遣事業や開発教育指導者として開発教育に関して現場に普及するための教材作成・指導案作成や研究授業等も行っている。全国国際教育研究協議会の全国事務局長や日本メディア英語学会の理事も務め、全国の国際理解教育や高大連携の推進にも力を入れている。

第2部：招待講演（14:50～15:50）

発表者：田中茂範先生（慶應義塾大学名誉教授）
発表題目：「英語の語彙力：定義、査定、育成」

要旨：語彙力は英語力の要である。この語彙力をどう定義するか？語彙力の進捗状況をどう測定するか？この2つの問いに向き合いながら、「英語語彙運用力テスト」（一般社団法人日本英語教育支援機構（JOSEE）を開発した。ここでは、その開発の物語、そしてテストの特徴について説明を行いたい。また、語彙力育成のための指導方法についても言及したい

発表者プロフィール：

田中 茂範：コロンビア大学大学院博士課程（1983年教育学博士）
現在、慶應義塾大学名誉教授・PEN言語教育サービス代表



専門

教育学、意味論

役職

2005 ～ 2012 国際協力機構（JICA）語学諮問委員会座長

2008 ～ 2018 ココネ株式会社社外取締役

2005 ～ 2025 ベネッセ教育総合研究所内ARCLE研究理事を経て名誉理事

2018 ～ 現在 一般社団法人 日本英語教育支援機構 代表理事

2020 ～ 現在 モンテソーリインターナショナルミライキンダーガーデン 名誉園長

出版物

100冊を超える書籍の出版に加え、Language Learning, Studies in Second Language Acquisition, RELC, International Journal of Applied Linguisticsなど影響力の強い国際誌に論文を発表。Eグレイト英和辞典（ベネッセコーポレーション）編集主幹、PRO-VISION（高等学校検定教科書、桐原書店）編集責任者、New Rays English Communication（高等学校検定教科書、いづな書店）編集責任者などを務める。

現在の活動内容

複数の中学・高校で教育アドバイザーを務めると同時に、生徒に対して実際に授業を行っている。オーダーメイドのカリキュラム開発と独自の教材開発が最大の強味。探究学習、PBL、SDGs、生成AIなどについても詳しい。

第3部：会員発表（16:05～16:35）

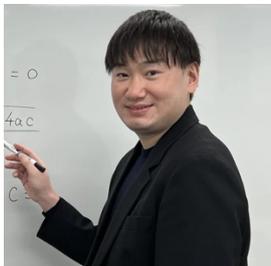
発表者：北村友宏先生（慶應義塾大学博士後期課程）

発表題目：発表・講演題目：今さら聞けない統計のお話（基礎編）Part 1

要旨：現在、ビッグデータや計量手法の発達にともない、統計学などの計量的手法を用いた研究のニーズも増している。本発表では、“今さら聞けない”統計学の基礎の基礎についてレクチャー形式で話をする。特に、「統計的仮説検定とは具体的に何を行っているのか?」、「因果関係と相関関係とは何か?両者をどのように見分けるのか?」など統計学について特におさえておきたい基礎の基礎について詳しく説明を行う。

発表者プロフィール：

北村 友宏（きたむら ともひろ） 慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程在籍。



青山学院大学地球社会共生学部、駒澤大学文学部にて非常勤講師を務める。専攻は、社会階層論、数理社会学、計量社会学。主要業績に以下がある。

「学校外教育投資の規定要因に関する分析：出身階層と居住地域に注目して」（法學政治學論究126号、2020年）、「なぜ学校外教育に投資するのか：数理モデルによる投資メカニズムの解明」（理論と方法39巻1号、2024年、共著）、「大卒学歴は平等化機能を持つか？世代間の所得弾力性に注目して」（三田社会学29号、2024年、共著）。